

男女共同参画のための啓発誌

自分らしく生きられる社会をめざして

ハーモニー おやま

第70号

R3.3.31

16.6%

何のこと?

(こたえは6ページ)

巻頭特集 『男性学の視点から男女共同参画を考える』
田中 俊之 博士(社会学)

離れた
元気の
聞こえて
うれしい。





男性学の視点から 男女

令和2年11月12日(木) 小山市立文化センターで予定していたトップセミナー・おやまイクボス協議会セミナーをコロナ禍のため中止としました。講演依頼しておりました男性学の第一人者である田中俊之先生から小山市民の皆さんに向けてご寄稿いただきましたので、今回の特集に掲載いたします。

男女共同参画社会とは

1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから、20年以上が経過しました。改めて確認しておく、男女共同参画社会とは、「性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる」社会のことです。こうした社会の実現が目指されるということは、換言すれば、現代の日本では、性別によって個性や能力の発揮が押さえつけられているということでしょう。

ジェンダー・ギャップ指数(政治、経済、教育、健康の4つの分野から男女の格差をはかる指標)の国際的な順位の低さがしばしば話題になることからわかるように、性別によって大きな制限を受けているのは女性です。とりわけ、政治や経済の領域への進出が遅れています。

政治や経済の場面で女性が活躍できないのは、かつてほどではないにせよ、まだまだ女性が家事や育児を担っているからです。1975年には即席麺のCMで使われた「わたし作る人、ぼく食べる人」というフレーズが性別役割分業を助長すると批判されましたが、現在でも統計的に男女の家事・育児時間の差は大きく、少なくない女性たちが「女は家庭」に縛られていると言えます。

女性活躍推進の流れの中で、「女も仕事」が加わっていることを踏まえると、女性たちの負担は増えていくばかりです。女性差別の根強く残る日本では、女性が女性だからこそ抱えてしまう「女性問題」の解決を目指す必要があります。



男性が抱える「男性問題」

男女平等の観点から見ると、差別されているのは女性です。それでは優位な立場にいるとされる男性の人生に困難はないのでしょうか。この疑問にこたえるために、ご紹介したいのが男性学という学問です。男性学は男性が男性だからこそ抱えてしまう「男性問題」を対象にしています。

日本では「男は仕事」というルールが強く課せられるため、もっとも典型的な「男性問題」は働きすぎです。国際的なデータから見ても、他国と比べて、男性の労働時間が明らかに長くなっています。

男性の「働きすぎ」が改善しない根本的な原因の一つに、男女の賃金格差があります。日本ではフルタイムで働いていたとしても、男性の賃金を10とした場合、女性の賃金は7程度です。具体的に言うと、男性が30万円稼げるのに対して、女性は20万円しか稼げないということになります。ちなみに、男女平等の先進国とされる北欧では、男女の賃金格差はほとんどなくなっています。

男女で賃金の格差が大きいと、夫婦で共働きをしている場合、賃金の安い妻の方が育休を取ったり、時短勤務をしたりすることになりがちです。家計を豊かにすることを考えるならば、より多く稼げる夫にはたくさん働くことが求められてしまうのです。妻が専業主婦やパートであれば、この傾向はさらに強くなるでしょう。

こうした構造によって長時間労働が改善しないわけですから、女性差別の解消に男性も無関心ではいられませんし、女性のために「やってあげる」ということでもないのです。男性も女性と共に当事者意識を持って、男女共同参画社会の実現を目指す必要があります。

学校卒業後から定年退職まで40年に渡って仕事中心の生活をしてきた男性たちは、家族との関係が希薄になりがちで、友だちもあまりいない傾向があります。そのため、仕事を辞めると喪失感や虚無感を抱いてしまうことが少なくありません。これも「男性問題」です。

定年退職した方のインタビューをした際に、定年後は「きょうよう」と「きょういく」が大切だと教えていただいたことがあります。それぞれ「今日、用がある」と「今日、行くところがある」の略で、「なるほど!」と思いました。この問題については、内館牧子さんの小説『終わった人』(講談社)で詳しく描かれており、舘ひろしさんと黒木瞳さんの出演で映画化もされています。定年後の男性の生き方に関心のある方は、ぜひ手に取ってみてください。



共同参画を考える

田中俊之先生の寄稿文について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

「小山市かんたん申請サイト」にてお受けいたします。(4/16(金) 〆切)ハーモニーおやま全体へのご意見等もお待ちしております。



子どもの時間と大人の時間

いまでは「男も家庭」という時代になりました。そのため、仕事と育児の両立も「男性問題」として考えられます。子育ての大変さは、我が家に5歳の長男と1歳の次男がいるのでよく分かります。

例えば、長男の保育園の送迎を担当しているのですが、朝、玄関から出すまでが本当に大変です。まずなかなかベッドから起きてきませんし、朝ごはんも食べずにおもちゃで遊び始めることもよくあります。仕事の始まる時間が迫る中で、どうしてもイライラが募ってしまいます。ただ、9時には保育園に着かなければならないというのは、落ち着いて考えてみると、こちらの都合にすぎません。

映画監督の中村祐子さんは著書『マザリング 現代の母なる場所』（集英社）の中で次のように述べています。「子どもと夕方一緒に過ごしていると、大人はついごはん何にしようかな、お風呂に入れなきゃ、何時までに寝かしつけなきゃというように、段取りを思い浮かべるが、子どもはそうではない。いま目の前のことに全時空間を投入し、集中する」。大人は、24時間という時間の中でスケジュールを立て行動します。しかし、子どもは違います。自分の気分や調子に合わせて行動するのは、本来、とても人間的で自然な生活のリズムのはずです。

もちろんすべて子どもの時間に合わせていたら生活が成り立ちません。しかし、僕自身が普段の行動を振り返ってみると、大人の時間に合わせるばかりで、子どもの時間を考慮していないのではないかと反省します。もう少し、大人が子どもに合わせてもいいのではないのでしょうか。



誰もが生きやすい社会に向けて

これまで主に結婚して子どもがいる家庭の話をしてきましたが、シングルで子育てしている家庭も少なくありませんし、未婚化や高齢化で単身世帯が増えました。また、2015年に渋谷区で開始された同性愛者の方を対象としたパートナーシップ制度に象徴されるように、同性カップルの存在も社会的に認められるようになっていきます。



現代の日本では、特定のタイプの家庭を対象とするのではなく、誰にとっても生きやすい社会の実現という視点から、男女共同参画を考える必要があります。そこでキーワードになるのは多様性です。

「男だから」、「女だから」という決めつけを、自分自身にも他人にも押しつけないようにしましょう。多様性を認めるためには、性別によって先入観を持つのではなく、一人ひとりの個性を認めることが最も大切になります。お互いを尊重して敬意を払う関係が、誰にとっても生きやすい社会を作っていくのです。

田中先生からのメッセージ

この文章が男女共同参画についての理解を深め、小山市がより暮らしやすい街になるために少しでも役に立ったのであれば嬉しいです。今回、講演会は中止となってしまいましたが、近い将来に小山市を訪れ、みなさんと直接お会いして一緒に男女共同参画について考える機会があることを心から楽しみにしています。

田中俊之先生のプロフィール



内閣府男女共同参画推進連携会議有識者議員、厚生労働省イクメンプロジェクト推進委員会委員、渋谷区男女平等推進会議委員

1975年、東京都生まれ。大正大学心理社会学部准教授 男性学を主な研究分野とする。著書 『男性学の新展開』青弓社、『男がつらいよー絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA、『〈40男〉はなぜ嫌われるか』イースト新書、『男が働かない、いいじゃないか!』講談社プラスα新書、小島慶子×田中俊之『不自由な男たち——その生きづらさは、どこから来るのか』祥伝社新書、田中俊之×山田ルイ53世『中年男ルネッサンス』イースト新書、『男子が10代のうちに考えておきたいこと』岩波ジュニア新書「日本では“男”であることと“働く”ということとの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らしている。

『日本女性会議 2020 あいち刈谷』がコロナ禍により、令和 2 年 11 月 13 日（金）から 3 日間オンラインで開催されました。テーマは「かけがえのない“わたし”を生きる～ものづくりのまちから発信～」です。その内容の一部をご紹介します。

【11月13日（金）】基調 講演

初日の基調講演は、社会学者の上野千鶴子さんが「コロナ禍とジェンダー」について話されました。コロナ禍のような非常時は、平時の矛盾が拡大し増幅して現れやすいそうです。派遣社員の打ち切りも多くなり、そのうち 7 割が女性で非正規の格差がみられるといいます。3 組に 1 組が離婚する現代ではシングルマザーが多く、収入が 7 割も減って貧困が深刻化しており、子ども食堂も打撃を受けています。コロナ禍の今こそ真の政治の力が求められると言われました。



日本はどんな社会を目指しているのか、と問われ権力を乱用するのではなく、フェアネス（社会的公正）でなければならないと強調されました。

世界を見渡すと、新型コロナウイルス対策の対応が良い国のトップテンの中に、女性のリーダーの国が 4 つ入っています。決断力や共感力がある女性を国政に増やすことは、国策であると言い切られました。

上野さんのわかりやすく、闊達なお話はあっという間で、コロナ禍の中でとても貴重な時間となりました。

【11月14日（土）】分科会：ライフ・ワーク・バランス

「100 人 100 通りの働き方」をテーマにユニークな取組事例を紹介しながら「だれもが幸せに活躍する組織、社会とは」を聴講者の意見を交えて皆で考える分科会でした。

* IT系企業S社の事例

残業をするのは当たり前のブラック時代、子どもを産んで深夜まで働けないと優秀な人材が辞めていき離職率は 28% に上昇。みんながハッピーになるにはどうしたらいいのか？個人を尊重し、その人らしく生きるために一人ひとりに合った働き方に変えようと、取り組みました。働く場所と時間を自由に選べるようにし、個人を尊重すると多様な人材が集まりました。自分で選択するのでモチベーションも上がります。

それぞれが自分の都合を優先して働くと、個人が継続して就業することが困難になるので、チームを組んで業務にあたることにしました。そして徹底的な情報共有により情報格差をなくしたことで業務の見える化が実現すると、多様な視点から提案や改革がなされ、会社の成長へとつながっていきました。

会社の利益優先から社会全体の人々の人生まで視野を広げて経済活動をしていくことが求められる時代になりました。結論は利他的であれ！「世界全体が幸せにならなければ個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉で締めくくり、終了しました。



知っていますか？ この言葉

〈サバティカル休暇〉

一定の長期間勤務者に対して、使途に制限なく、取得理由を問われず与えられる、長期休暇のことです。起源は1880年に米ハーバード大学で導入された研究のための有給休暇とされています。この休暇はヨーロッパで普及しており、家族との旅行のほか、キャリアアップのために利用するなど、会社側にもメリットはありそうです。最近、日本でもこの休暇を取り入れる企業が出てきたそうです。

働き方改革により、令和2年4月から年5日の有給休暇の取得が義務付けられました。有名旅行予約サイトの調査によると、日本では有給休暇の取得率は低く、平均50%で、主要19ヶ国中最下位でした。取得に罪悪感のある人の割合は58%で最多でした。米国では39%、フランス25%、ブラジル23%、イタリア21%となっています。

気持ちよく取得するには普段からの準備が必要だそうです。普段からやるべき内容を曜日や時間ごとにリスト化しておき、業務を代行してもらう時のマニュアルを作成しておくのが良いとか。また、周囲とのコミュニケーションを積極的にとっておくのも大切だそうです。そして取得後は感謝の気持ちを忘れないことです。



まずは既存の休暇制度を使って休むという自分自身の意識改革が必要なかもしれません。心身ともにリフレッシュすることは、家族や職場にも良い効果が期待できそうですね。

イクボスってなんだ!?



※「ファザリング・ジャパン調査「イクボス充実度 自治体ランキング」」において小山市が全国市区町村で4位になりました。

日本女性会議の多文化共生についての分科会で、日本に住む外国人の女性たちの話を聞きました。文化のギャップに戸惑い、言葉もわからないことで情報を充分に得ることができず、子育てするにも大変苦労してきたそうです。そして、学校の成績が悪くなる・犯罪が多くなるなど偏見に苦しめられています。実際は成績も悪くないし、犯罪も警察発表では多くなっています。日本人と外国人がお互いに理解し合うために、行政や国際交流協会、NPOの人たちが橋渡し役となつて様々なイベントを一緒に企画・運営しているそうです。

小山市では、国際交流イベントや日本語教室など市民によるボランティアの協力で行われています。二〇一九年から高校受験の情報提供相談会を市民ボランティアと宇都宮大学の協力で開くことができました。外国人の方たちの能力を発揮できる環境づくりに多くの市民の協力がが必要です。

一方、昨年北関東で技能実習生による農作物窃盗の報道がありました。彼らを犯罪に追いやった背景に目を向ける必要があります。コロナ禍で、ますます貧困に追いやられています。対等な人間であるのに、使い捨ての低賃金労働力とした社会構造は変えていかなければなりません。みんな仲良く幸せに共生していきたいですね。

こうい



<性犯罪に関する刑法改正>

2017年6月、性犯罪に関する刑法が110年ぶりに大幅改正されました。しかし、改正後もなお性被害が多発し、課題が多く残りました。3年後に見直すとの条文により2020年が改正可能な年になります。

内閣府の調査によると、日本において女性の13人に1人、男性の67人に1人が無理やり性交された経験があると答えています。2017年の法改正では、18歳未満の子どもを監護する親や児童養護施設職員など、その影響力に乗じての性交・わいせつ行為は子どもの同意の有無を問わず犯罪となりましたが、教師やコーチなどを保護・指導する立場の名による行為は対象となっていない。諸外国では18歳未満の子どもに対し、大人が影響力を行使したり、未熟な状況を利用しての性行為を犯罪としています。日本でも、立場や権力関係を利用した未成年との性行為は、同意の有無を問わず犯罪とするべきだという声が強くあります。

専門家で構成される日本学術会議で、現行法の問題点を指摘し、国際的な人権基準を反映した法改正を求める提言をまとめました。「各国と同様、同意のない性行為自体を犯罪とする規定に変えるべきだ」としたものです。

親族による被害、教職者や指導者等、立場上権力のある者による被害が相次いでいます。自ら命を絶つ被害者もあり、早急な見直し、改正が望まれます。そして、今後の動向に注目していく必要がありますね。



<～簡単おいしい～おしゃれ『シーフードピラフ』>

先日、料理教室で習ったばかりのホッパホッパの新メニューをご紹介します。

- ① 玉ねぎ、ピーマンは、みじん切りにして油で炒めておく。
- ② シーフードミックスは、さっと茹で、酒をふりかけておく。
- ③ 炊きあがったご飯に①と②とコンソメ少々と塩・コショウ。あればチリパウダー（これが絶妙に合う！）を混ぜて、1～2分蒸らす。
- ④ ここへバター（お米2合に30g目安：健康志向の方はオリーブオイルでOK）としょうゆを加えて、もう！？出来上がり。

コロナ禍の昨今、外食を控えている皆様にカフェ気分を十分に楽しめて、しかも家族も喜ぶ絶品メニューです。

是非、お試しあれ。



材料（4人分）

- ◆お米…2合
- ◆たまねぎ…1/2個
- ◆ピーマン…1個
- ◆油…少々
- ◆シーフードミックス…200g
- ◆ワイン（白）…少々
- ◆コンソメ（顆粒）…少々
- ◆塩…少々
- ◆コショウ…少々
- ◆チリパウダー（又はパプリカパウダー）…少々
- ◆バター…30g（オリーブオイルで可）
- ◆しょうゆ…少々



～ちょっと一考～

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の元会長の女性蔑視発言がありました。世界各国もニュースに取り上げました。スポーツ界のみならず、男性中心の社会のように今の日本の姿が映し出されました。これを前向きにとらえ、ジェンダー平等が日本へ早急に進められることを願っています。



表紙のこたえ

スーパーコンピュータ「富岳」が計算速度など主要4部門で世界一となりました。日本の科学分野での女性研究者は16.6%、イギリス38.7%、アメリカ33.4%など、いろいろな視点や発想を取り入れるためにも、女性が活躍できるよう支援してほしいものです。

「SOGI」をご存じですか？

～みんなが自分に関係あることとして考えてほしいのです～

一人ひとりの性格が違いうように、それぞれ性に対する考えは違います。身体の性と心の性が一致しないことや、好きになる性をだれも決めつけることはできません。

最近、性の多様性について認識されるようになってきていますが、なかなか理解されず、まだ性的マイノリティ（少数派）に対する差別や偏見があるようです。少数ということだけで理解されず、特殊なものと思われがちですが、それは違います。人はそれぞれ好きな人がいたりお気に入りの服があったりするなど、人それぞれ違いがあります。

SOGI(ソジ・ソギ)とは

性的指向(Sexual Orientation)、性自認(Gender Identity)の頭文字をとって「SOGI」といいます。性的指向や性自認は、生まれ持ったもので、自分の意志や治療で変えられるものではありません。お互いに受容し尊重しあうことが大切です。

性的指向：好きになるかならないか、なるとしたらどんな性の人を好きになるか、ということ。異性を好きになる人、同性を好きになる人、どちらの性も好きになる人、性別で好きになる人を決めたくない人、特定の誰かを好きにならないという人など様々です。

性自認(心の性)：自分自身はどんな性だと思うか、ということ。男性だと思う人、女性だと思う人、男性と女性どちらとも思う人、性別は決めたくないという人、など様々です。

SOGIハラスメントとは

「性別はこうあるべき」といった固定観念は、そこにあてはまらない人への偏見や嫌がらせ、差別を生み、生きづらさを感じている人がいます。このような性的指向・性自認についての嫌がらせ、差別のことを「SOGIハラスメント」と呼んでいます。

- 例) 差別的な言動や嘲笑、差別的な呼称(レズ、ホモ、オカマ、オネエ等)
アウティング(他人のSOGIを無断で第三者に話すこと)
いじめや無視、暴力、不当な異動や解雇
自認しない性別での生活の強要(制服、服装、髪型、性別欄の記載等)

《わたしたちができること》

SOGIに関心をもつこと

地域や学校、会社などで生きづらさを抱えていたり、SOGIハラスメントの被害にあったりする人がいます。「身近にいない」のではなく、「気づいていない」と考えて、すこしでもSOGIに関心を持ちましょう。

性的マイノリティに偏見をもたない

地域や学校、職場などで、まわりの人を性的マイノリティであることを理由にいじめたり、からかいの対象にしたりしてはいませんか。日頃の会話から、配慮を心掛けましょう。

アウティングしない

性的マイノリティの人から自身の性的指向・性自認のことを相談されたり、打ち明けられたりしたときに、その人の同意を得ずに他の人に暴露してはいけません。

SOGIを正しく理解し、SOGIハラスメントのない社会を目指して

性的マイノリティの人は、学校や病院、職場、役所の窓口、民間企業のサービスを受ける場面など、あらゆる場で困難に直面しています。職場等での研修などを通して正しい知識の習得と理解に努めるとともに、認め、尊重していきましょう。

ドメスティック・バイオレンス 配偶者間や親しい間柄にある人からの暴力(通称:DV)

心あたりはありませんか？

- 身体的な暴力…物をなげつける、なぐる、足でける
- 精神的な暴力…大声で怒鳴る、友人とのつきあいを制限する
- 経済的な暴力…生活費を入れない
- 性的暴力…性的関係の強要、避妊に協力しない

1人で悩んでいませんか？

- とちぎ男女共同参画センター相談ルーム ☎028-665-8720
- 小山警察署 ☎0285-31-0110
- 栃木県警察本部県民相談室 ☎028-627-9110
- ウイメンズハウスとちぎ(民間) ☎028-621-9993

■相談窓口

小山市配偶者暴力相談支援センター
受付時間：平日9時から17時
連絡先：0285-22-9602

いきいき インフォメーション

男女共同参画都市宣言20周年記念 男女共同参画フェア を開催します

一人ひとりが、その能力と個性を十分認め合い支え合うことができる、男女共同参画社会の実現に向けて、見て、聞いて、楽しむ男女共同参画フェアを開催します。

【日 時】令和3年6月27日(日)
【会 場】小山市立文化センター 大ホール
【内 容】上野千鶴子氏基調講演ほか

詳しい内容などは、日にちが近くなりましたら、広報おやまなどでご案内いたします。



暮らしの中で何気なく感じる男女共同参画への気づきや、普段言えない「ありがとう」のメッセージを言葉や写真で伝えてみませんか?

【募集期間】
令和3年4月30日(金)まで



詳しくは、市ホームページへ▶

① 女性の生き方なんでも相談

女性の生き方や、悩み、家庭や仕事の問題などについて、女性の弁護士が対応する法律相談です。
(要予約)

無料

【日時】奇数月第4金曜日
午前10時から12時(1人20分)

② 女性のための心の相談

女性を対象にした、女性のカウンセラーによる思春期、子育て、仕事、人間関係に関する悩み、更年期、老年期の心の健康に関する相談です。
(要予約)

無料

【日時】毎月第4月曜日
午後1時30分から4時15分
(1人45分)

★①②の申し込み、問い合わせ
男女共同参画課(☎22-8078)
(4/26から 22-9296)



【相談日】月曜日・水曜日
【相談時間】17:30~19:30
【相談電話】☎028-665-8724
※相談に関する秘密は厳守します。

編集後記



初めてのWeb会議不安なり 家族みんなでそうっと応援

この号で「ハーモニーおやま」も70号となりました。新型コロナウイルスで翻弄され、当たり前の日常が奪われたこの1年。収束を願いつつ、いろいろな視点で紙面を作っていけたらと思います。

- ◆この広報紙は、市民ボランティアに依頼し編集しています。
- ◆今後の紙面づくりのために皆様のご意見をお寄せください。
- ◆この広報紙は市役所及び各公民館・男女共同参画課に置いてあります。

男女共同参画社会とは

性別にとれわれず、社会のあらゆる分野に女性も男性も等しく参画し、家庭・地域・職場において協力し、共に責任を担い、一人ひとりが個性と能力を発揮し、家庭とその他の生活の活動が、両立できる社会です。

ハーモニーおやま第70号 令和3年3月31日発行
編集・発行 小山市総務部男女共同参画課
所在地 ☎323-0031 小山市八幡町1-4-5
☎ 0285-22-8078
(4/26から 0285-22-9296)
表紙絵 かとう だいすけ(絵本作家)